

朝日新聞 2012(平成24)年4月12日(木) ぶらりミュージアム

ぶらり ミュージアム

県立博物館

この男神像は、女神像、僧形像などと一組で白石町の彦嶋神社の御神体であったが、近年、新しい御神体と交代し、文化財として当館に預けられている。彦嶋神社は、杵島山系の南方、有明海

彦嶋神社の男神像



面長な御神体底に墨書銘

と近接する岩山の低丘陵を境内とし、その上部に社殿を構えている。8世紀に成立したと考えられる『肥前国風土記』は、杵島山の三峰を比古神、比売神、御子神にあてていて、彦嶋神社の神像はこの三神に該当するのかもしれない。

大変に出来栄えがよく、正統な彫技やこめかみをしぼった面長な顔立ちから、鎌倉末期から南北朝時代にかけて、14世紀半ばころの制作と考えられる。像底に墨書銘があり、当地を治めていた白石氏の一族と考えられる藤原通村の名が記されていることも貴重である。

(県立博物館
学芸員 竹下正博)

佐賀市城内1の15の23。電話 0952・24・3947。バス停「博物館前」下車、徒歩1分。開館は午前9時半～午後6時。休館日は月曜。

白石町の彦嶋神社所蔵
(県立博物館保管) / 14世紀半ば / 檜材 / 一木造り / 像高51cm / 6月3日まで常設展「佐賀県の歴史と文化」で公開中